



これからの遠野の観光を考えるワーキング会議 第2回

株式会社地域経済活性化支援機構
令和4年6月30日

議題

1. 観光推進体制について
2. 遠野市観光基本構想・基本計画策定の進め方について
3. その他



観光推進体制について

本会議の概要（前回会議 掲載）

趣旨

遠野市の観光推進・観光振興に向け、将来的な観光組織体制を検討・策定する。

前回会議の振り返りと、今後の観光組織体制について

- 観光組織に関して
 - 組織にはビジネス感覚のある人が司令塔役を担う必要がある。
 - 組織が担うべきは観光に関するマネジメント、マーケティング、モニタリング。
 - 行政からの干渉をなるべく受けない自律性の高い組織を目指したい。一方で行政と足並みを揃え推進していく必要がある。
 - 組織は、遠野市全体の観光活性化に関する気概を持つ先鋭メンバーで構成すべき。



観光の組織体制は時間をかけて検討すべき議題でもあることから、観光の基本構想を策定する中で、新たな観光の組織体制も策定することとし、当面は「協議会準備室（仮称）」として、現メンバーが観光の基本構想や計画を協議し検討していく。



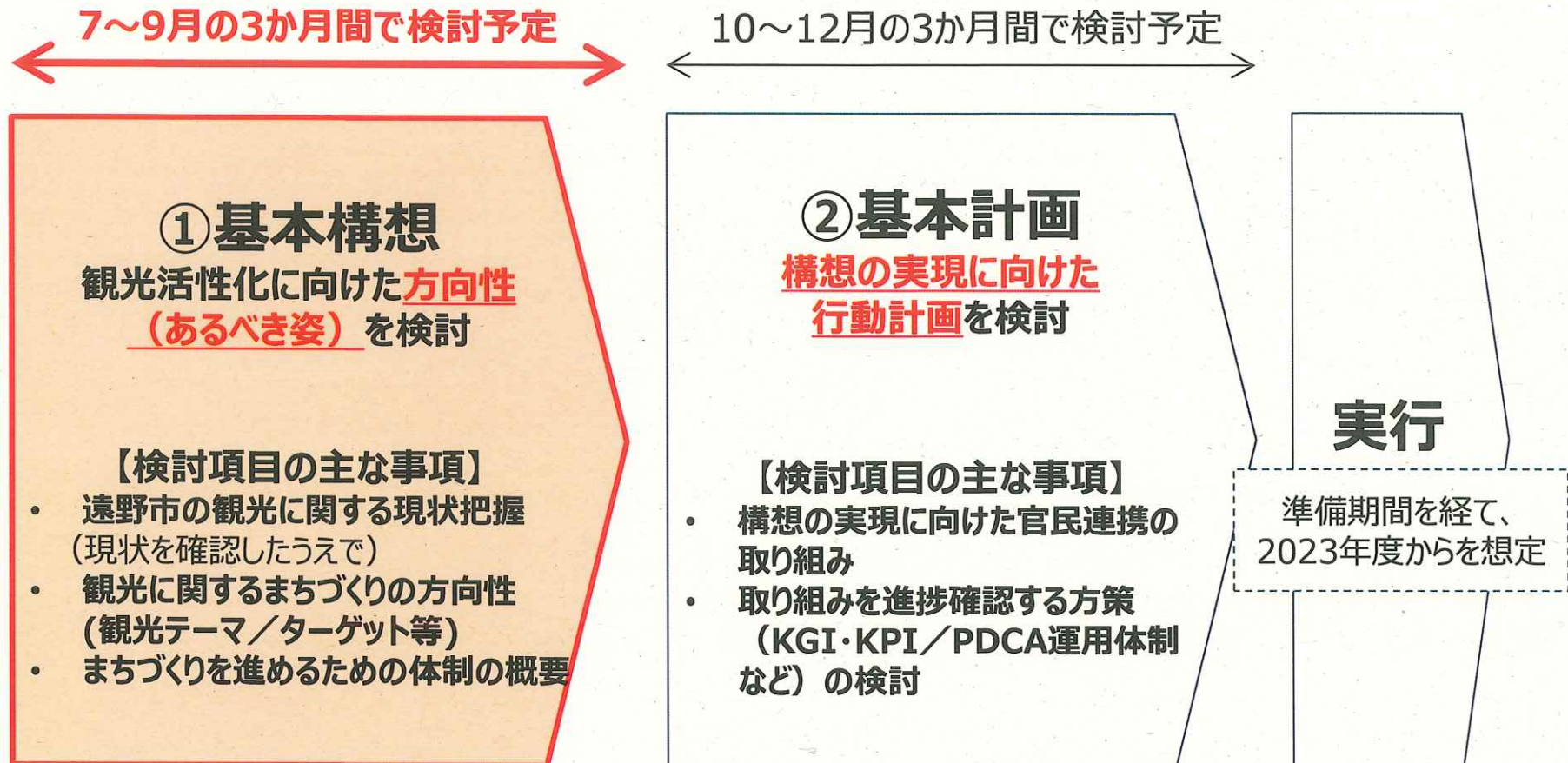
**遠野市観光基本構想・基本計画策定
の進め方について**

プロジェクトの背景と目的

- ・遠野市においては、第2次遠野市総合計画において、①まつりやイベント、観光施設などの観光資源の情報発信に取り組むとともに、受入体制の強化を図り、新規誘客とリピーターの増加に努める。②また、外国人観光客の受入体制及び環境整備に取り組む、と位置づけられている。
- ・遠野市の観光入込数は震災以降、減少が続き、2018年は震災前比8割の167万人。沿岸部と北上盆地間の経由地として立ち寄りが多く、宿泊客は全体の4%台と極めて少ないが、この傾向は震災前から変わらない。
- ・「遠野物語」のブランド力がバブル期にピークを迎え衰退する中、**新たな遠野の観光ブランド確立に繋がるエントリーコンテンツ**を築き、既存の観光ルートへ誘客させ、滞在時間増とファン化をはかるような取り組みが求められる。
- ・上記の取り組みを官民連携で進めるための主体として、遠野市の観光協議会組織「遠野市観光推進協議会」が存在していたが十分に機能しきれてこなかった経緯がある。今後、新たな**DMO組織の組成も視野に入れた形で、推進主体のあり方**も明確にしていく必要がある。
- ・このプロジェクトにおいては、新たな遠野の観光ブランド確立に向けた地域づくり方策、及びその推進主体のあり方について検討することを目的とする。

プロジェクトの概要

- ①基本構想と、②基本計画の2段階に分けて、遠野市における観光活性化に向けた方策の検討を行います。



検討を進めるうえでポイント

■ 構想の位置づけ（構想を考えていくうえでの“主語”）

- ・このプロジェクトでは、遠野市という「地域にとっての観光活性化方策」を検討していくことを想定しています。
- ・そのため、構想（計画）の**主語は遠野市役所ではなく、「遠野という地域」、あるいは、「観光活性化に資する連携協議体」となることを念頭**にしています。（遠野市の自治体としての部門計画となる観光計画は、このプロジェクトを踏まえて、別途作成）

■ 観光に関するデータ分析（ファクトの把握）

- ・遠野地域での観光に関する構想の検討は、**10年ぶり**です。そのようなこともあり、今回のプロジェクトでは、**各種データ分析に基づくファクトの理解**も丁寧に行うことを想定しています。
- ・標準的な統計データや、地域経済分析システムの利用に加えて、例えば、ふるさと商社や観光協会の実績データや、（現状の宿泊比率は低くとも）旅館の口コミ評価分析など、地域の観光経済の状況を把握できるファクトをできるだけ多く分析したいと考えています。

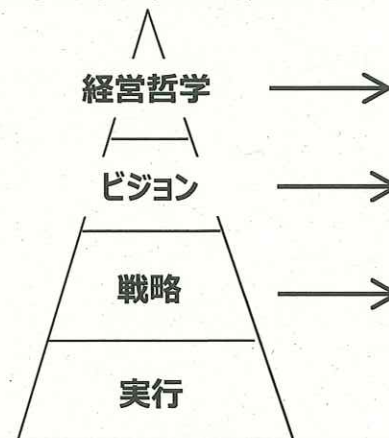
■ 構想作りの参画者

- ・このプロジェクトは、“観光”事業者には軸足が置かれやすいテーマとなっていますが、観光客と接点を持ち得る住民（ボランティアガイド等）の意見を聴取するとともに、
- ・近年、まちづくりへの住民参加の方策が多様化していることを念頭に、**構想の実行面**（例：ガイド、ボランティア、ローカルビジネス、クラウドファンディングなど）でも参画方策を検討していきます。

■ 構想の推進組織

- ・現段階では明確な仮説はありませんが、官民公金が連携することを念頭に、推進組織の検討を行います。
- ・構想時点では①新組織の担う役割（業務分掌に相当）、②戦略を実行していくための経営資源（ヒト・モノ・カネ）、③司令塔組織などについて、骨格を固めていくことを想定しています。

【標準的な組織の成り立ち】



【新組織の検討（想定）】

遠野市の観光まちづくりの方向性と基本的に合致

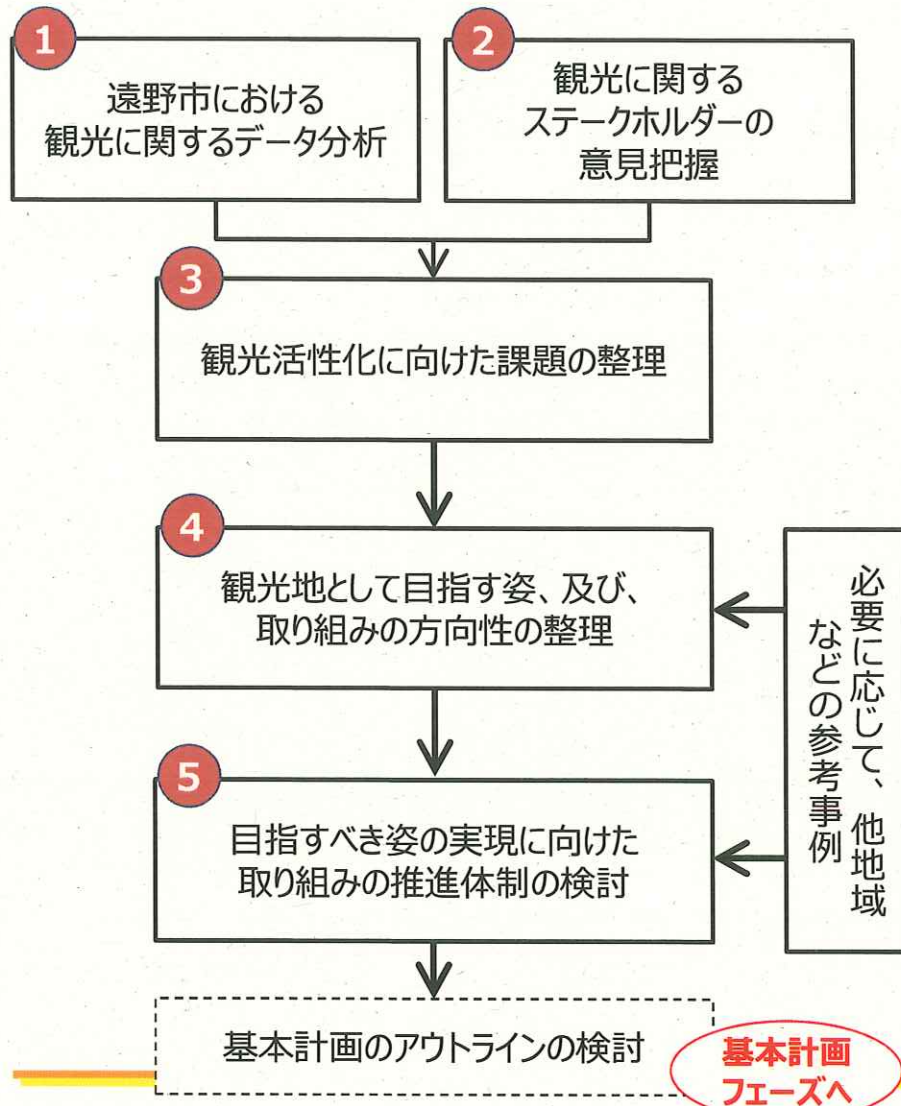
戦略を実行させていくための経営資源について検討

■ 基本計画の進め方（現段階の仮説）

- ・基本計画においては、**KGI・KPIの設定、PDCAサイクルの検討、地域経済への波及効果の設定**などを、現段階では想定します。

基本構想 検討フロー・項目

検討フロー（基本構想）



検討の項目（仕様）

1. **（遠野市における）観光に関するデータ分析**
 - ・ 遠野市で把握されている入込客数等の統計データ、地域経済分析システムなどにより、観光関連データの調査分析を行う。
2. **観光に関するステークホルダーの意見把握**
 - ・ 観光関連事業者、コアメンバー会議メンバーなどに対して、グループインタビューを実施し、観光に関する課題や今後の方向性に関する意見を把握する。
 - ・ 遠野市民の観光まちづくりに関する意向を把握する。（既存データの分析、グループインタビューの実施）
3. **観光活性化に向けた課題の整理**
 - ・ ①及び②で得られたデータ（定量・定性）と踏まえて、課題の整理を行う。（3C分析などのフレームを想定）
4. **観光地として目指す姿、及び取り組みの方向性の整理**
 - ・ 観光地としての目指す姿（例：ブランディングの方向性）や目指すべき姿を実現するにあたって必要となる取り組みを整理する。
5. **目指すべき姿の実現に向けた取り組みの推進体制の検討**
 - ・ 官民（公金）による連携体であることを念頭に、取り組みを推進するにあたって中核的な存在となる新たな組織体の検討を行う。

（その他）：
 必要に応じて、議論を進めるための参考事例について分析

Disclaimer

- 本資料は、株式会社地域経済活性化支援機構（以下「REVIC」という。）及び株式会社観光産業化投資基盤（以下「TiPC」という。）の活動に関する情報提供のみを目的として作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料で提供している情報につきまして、その正確性に万全を期して作成しておりますが、完全性を保証するものではありません。また、過去の情報は実績であり、将来の成果を予想するものではありません。本資料に基づくいかなる判断につきましてもREVIC及びTiPCはその結果の責任を負いかねます。
- 本資料の一切の権利はREVIC及びTiPCに属しており、本資料の全体又は一部の如何にかかわらずいかなる形式においてもREVIC及びTiPCに無断で複製又は転送等は禁じられております。